

義経探訪

源平最終決戦の地【壇之浦】

関門地域に点在する、壇之浦の合戦ゆかりの地。
 遠く離れた時代に思いを寄せ、合戦の足跡を辿ってみませんか。

壇之浦の合戦ゆかりの地【下関】

御旅所 (おたびしょ)

■下関市伊崎町2-9-21 ■交通／竹崎バス停徒歩8分



壇之浦合戦の翌日、伊崎に住む中島組という漁業団が丸太船4隻に分乗し、四つ網を張って小門(おと)海峡で漁をしていた時、網にかかったのが安徳天皇のご遺体でした。組の者は恐れ多いと直ちに小門の陸上に遺体を移し、安置しました。この場所を「御旅所」といいます。現在でも安徳天皇の御霊を弔う先帝祭の上関道中・上関参拝を先導するのは「中島家」です。

大歳神社 (おとしじんじや)

■下関市竹崎町1-13-10 ■交通／JR下関駅徒歩3分



義経が壇之浦の合戦に際して、戦勝祈願した神を祀ります。義経は有馬山(当時JR下関駅北口にあった)に富士の小松を植え、富士浅間の大歳神を祀り弓矢を神前に奉げました。のち、その弓矢を対岸の彦島にある平知盛の軍に射込んだために、驚いた平氏軍が壇之浦におびき出されたとされています。1186年、山の麓の漁民がこの戦勝の神を祀り、社に鎮めたといわれています。

平家の一杯水 (へいけのいっぱいみず)

■下関市前田町1-1-1 ■交通／前田バス停徒歩4分



「壇之浦の戦いで深手を負い、命からがら岸に泳ぎ着いた平家の武将が水溜まりを見つけ、飲んでみると真水だった。が、もう一口飲もうとしたら塩水になっていた。」という伝説が残る地。碑の近くの渚に湧き出る清水には祠が立てられ、今も元旦の若水として赤間神功の神前に供えられます。

満珠・干珠 (まんじゆ・かんじゆ)

■下関市長府宮崎町4-1(豊功神社) ■交通／松原バス停徒歩8分



源氏軍は壇之浦の合戦に際してこの島の周辺に兵を集結させたといわれています。義経は壇之浦が水戦の初戦であり、水戦が苦手な東国の兵を率いていた。しかも、敵地で地理や水路が不案内でした。長府申崎は平氏が陣を敷いた田野浦のちょうど対岸で、その地の船頭は名を得た屈強の者でした。義経は申崎の漁師たちから関門海峡の潮流の知識を得て、申崎船12隻を徴発し、自らこれに乗り込みました。

壇之浦の合戦ゆかりの地【門司】

水天宮【海御前の碑】(すいてんぐう・あまごぜのい)

■門司区大字大積 ■交通／大積東口バス停徒歩5分

壇之浦の戦いで平教経の奥方(海御前)は敵將を切り捨てると安徳天皇の後を追って海に身を投げました。その遺体は大積の浜に漂着。里人は浜の松の根元に手厚く葬り、水天宮として祀りました。海御前はいつしか河童の総帥になったと言われ、境内には硯石で海御前の碑や河童の像があります。



かっぱの石像 海御前の碑

甲宗ハ幡神社 (こうそうはちまじんじや)

■門司区旧門司 ■交通／甲宗ハ幡宮前バス停徒歩1分

貞観2年(860年)清和天皇が創建。神功皇后が三韓を征したときに着用したと言われる甲が御神体です。50年に1度公開され、次の公開は平成20年。寿永4年(1185年)源平の戦い後、範頼、義経兄弟は戦いで荒れた社殿を再建しました。境内には「平知盛の墓」といわれる石塔があります。



和布刈神社 (わふかりじんじや)

■門司区和布刈 ■交通／和布刈神社前バス停徒歩1分

仲哀天皇9年(200年)に創建。毎年旧暦元旦に行われる和布刈神事は有名です。新平家物語によると、合戦前夜、新宮橋魚彦による祝詞と神酒で戦勝を祈願し、平家一門の願文を奉上したとあります。



柳の御所【御所神社】(やなぎのごしよ・ごしよじんじや)

■門司区大里 ■交通／御所神社バス停徒歩1分

太宰府に落ちた平家は緒方三郎惟義の裏切りにあい、山鹿城(芦屋)を経て大里に御所を定めました。時に寿永2年(1183年)8月、去ったのは同年10月です。境内には都を偲んだ平時忠、経正、忠度の歌碑三基があります。



関門海峡義経探訪地図

●お問い合わせは
関門海峡観光推進協議会
 経済文化局門司港レトロ室
 (北九州市門司区東港町6-72 / TEL093-322-1188)
 下関市観光振興課
 (下関市南部町1-1 / TEL0832-31-1350)
<http://www.kanmon.gr.jp/>

